



学校教育目標『つながる 続ける 創り出す』

令和8年7月17日

横浜市立三ツ境小学校

三ツ境小だより8月号



子どもの力を信じて見守る

校長 山本 美和

6月16日（火）のプール開きから始まった水泳学習は、各学年の指導内容が順調に進み無事に終わることができました。今年から、水泳カードは「すぐーる」にしましたが、保護者の皆様のご協力により、スムーズに移行することができました。ご協力ありがとうございました。

さて、私は7月1・2日に6年生と日光修学旅行に行ってきました。三ツ境小の最高学年として、様々な場面で下学年の手本となり活躍している6年生です。私は、この2日間をとっても楽しみにしていました。

バス3台に4クラスが分かれて乗車し、高速道路に入ると各クラスのバスレク担当が工夫を凝らしたレクが始まりました。話し方や盛り上げ方も、とても上手で感心しました。

その後、観光地を巡り予定より早く宿舎に着きました。入館式の後、活動を進めていくと、引率教師たちから子どもたちへの指示が多いことに気付きました。子どもたちの活動が円滑に進むためだと理解しましたが、半日過ごしてきて「この子たちはもっとできる」と確信していました。

そこで、教師たちに「子どもたちを信じて、見守ってみて」と声をかけました。そうすると、子どもたちは自分たちで相談しながら考えて、活動を進めていきました。引率教師たちからすると、これまで指導してきたことが力となって成長した姿を見ることができました。子どもたちも教師たちも、それまでやってきたことの成果を実感することができた瞬間でした。

子どもを指導することと同じくらい大切なのが、子どもを信じて見守ることです。子どもは日々成長しており、失敗や成功を繰り返しながら自分で考え、行動する力を身に付けていきます。そのため、教師がすぐに答えを与えたり、過度に介入したりするのではなく、「この子はきっとできる」という信頼のもとで見守る姿勢が重要になります。

子どもは、自分を信じてくれる大人の存在によって安心感を得ます。担任が「あなたなら大丈夫」と信頼を示すことで、子どもは挑戦する勇気を持ちます。たとえ失敗したとしても、責められるのではなく見守られていると感じれば、その経験を次の成長につなげることができます。こうした積み重ねによって、自己肯定感や主体性が育まれていきます。

また、見守ることは放任することとは異なります。教師は子どもの様子を丁寧に観察し、必要なときには適切な支援を行います。子どもが自ら考え、仲間と協力しながら成長していく機会を奪わないことが大切です。さらに、担任が子どもを信じる姿勢は学級全体にもよい影響を与えます。信頼されていると感じる子どもは、友達のことも認め、支え合おうとします。その結果、安心して学び合える温かな学級づくりにつながります。

明日から、夏休みです。ご家庭でお子さんと過ごす時間が多くなりますが、時には「信じて見守る」ようにしてみてください。夏休みならではの経験やチャレンジをする機会を通して、お子さんの成長を実感できたら幸いです。どうか、よい夏休みをお過ごしください。